

この紙のゴール：表の数字を、対比と推測をつけて1つの段落に組み立てる

お題

Look at the table and describe what it shows in one paragraph.

表を見て、分かることを1つの段落で説明しなさい。数字を並べるだけにしないこと。（70語くらい）

思考・判断・表現

書く前に

1. 表を見て、気づいたことを2つメモする（日本語でよい）。

2. 設計図の順に英語にする。数字の羅列にせず、対比と推測を必ず入れる。

資料

Class 2-A: How we come to school (40 students)

By train	18	On foot	7
By bicycle	12	By bus	3

授業用の例です（実在の調査ではありません）。自分のクラスで数えた数字に置きかえても同じ型で書けます。

気づきメモ

表を見て気づいたことを2つ、日本語で（数字を入れる）

気づき1	
気づき2	

設計図

この順に書く

1	何のデータか（1文）	表が何を示しているかを1文で。ここに数字は要らない。 The table shows ...
2	いちばん多いもの（1文）	最大のものを、数字といっしょに。
3	その次と、対比（1～2文）	2番目を出し、少ないものと対比する（ここが段落の背骨）。
4	なぜそうなりそうか（1文）	表に書いていないことを1文。断定はしない。 One reason may be that ...

書き出し語のない行は、自分で書き出しから決めます。

書く

70語くらい

思考・判断・表現

読み返す 書けたらペアで交換して、この3つだけを見る

☐ いちばん多いものと、その数字が入っているか

☐ 対比の語（while / but など）が1つ以上あるか

☐ 表に書いていないこと（推測）を1文入れたか

表を、ことばにする（標準） | モデル答案と採点

モデル 和訳なし（読み上げて型だけ確認する用）

モデルA（70語）
The table shows how the 40 students in our class come to school. The most common way is by train, with 18 students, or almost half of the class. Bicycles come next, with 12 students, while only three take the bus. Walking is less common than I expected. One reason may be that our school is close to the station but far from the houses where most of us live.

モデルB（30語） ※直したい答案
18 students come by train. 12 students come by bicycle. Seven students walk. Three students take the bus. Train is the most. Bus is the least in our class.

どこで差がつくか

Bは1文もまちがっていません。それでも点が伸びないのはなぜか、2つ挙げよう。
①**対比がない**一文が並んでいるだけで、どれとどれを比べているかが示されていない（while only three take the bus の形が要る）②**表に書いていないこと**が**1つも**ない→推測の1文がないので、読み手は表を見れば足りてしまいます。段落にするのはこの2つだけです。

つまづき 返ってくる答案の型（誤答例から書いた指導のことば）

数字の読み上げになる	18 students come by train. 12 students come by bicycle. ... は表を音読しただけ。 対比の語を1つ入れる決まり にすると、それだけで段落の形になります。
推測を事実のように書く	This is because our school is near the station. は表から証明できません。may / probably を入れる 一断定できるのは数 だけです。
割合と実数が混ざる	almost half, 18 students のように並べるなら 18 students, or almost half of the class の形に。どちらか一方でも構いません。
the most と the largest の混同	人数・件数のように数えるものは the most common、量やサイズは the largest。表の見出しが何を数えているかで決まります。

評価 加点式9点（減点式にしない）

何のデータかを1文で示している	+2	思判表
いちばん多いものを、数字とともに書いている	+2	思判表
2番目以降と対比している（while / but など）	+2	思判表
数字から言えることを推測して1文書いている	+2	思判表
通して読んで意味がとれる（細かい誤りは数えない）	+1	知技

共通テストの図表問題（読む側）と、英検・二次の自由英作（書く側）のちょうど間にある技能です。定期テストに移すなら**同じ表を配って50語以内・10点（内容4・構成3・言語3）**が扱いやすい形。表を替えるより、型を固定して書く回数を増やすほうが伸びます。

40人を回す 週1で書かせても採点で潰れないための手順

- ・表は1つ作れば1年使えます。自分のクラスで数えた数字に置きかえると、生徒の食いつきが変わります（通学手段・部活・起きる時刻など）。
 - ・配分の目安は、書く10分＋ペアで3つの目3分＋良い段落を2本映して5分。**推測の1文だけ**を全体で共有すると、次の回で全員が書けるようになります。
 - ・数字の読み取りに時間がかかる生徒には基礎版を。表現バンク（数の言い方）が刷ってあるので、英語ではなくデータの読み時間に時間を使えます。
- 3つの版の使い分け 論題・書く型・測る力は3版共通で、変えているのは支援の量だけです（基礎＝理由の候補と書き出し語を全部／標準＝立場と譲歩だけ／発展＝型のみ、譲歩に切り返しの1文）。同じクラスで配り分けても、答案は同じ観点で並べて読めます。

